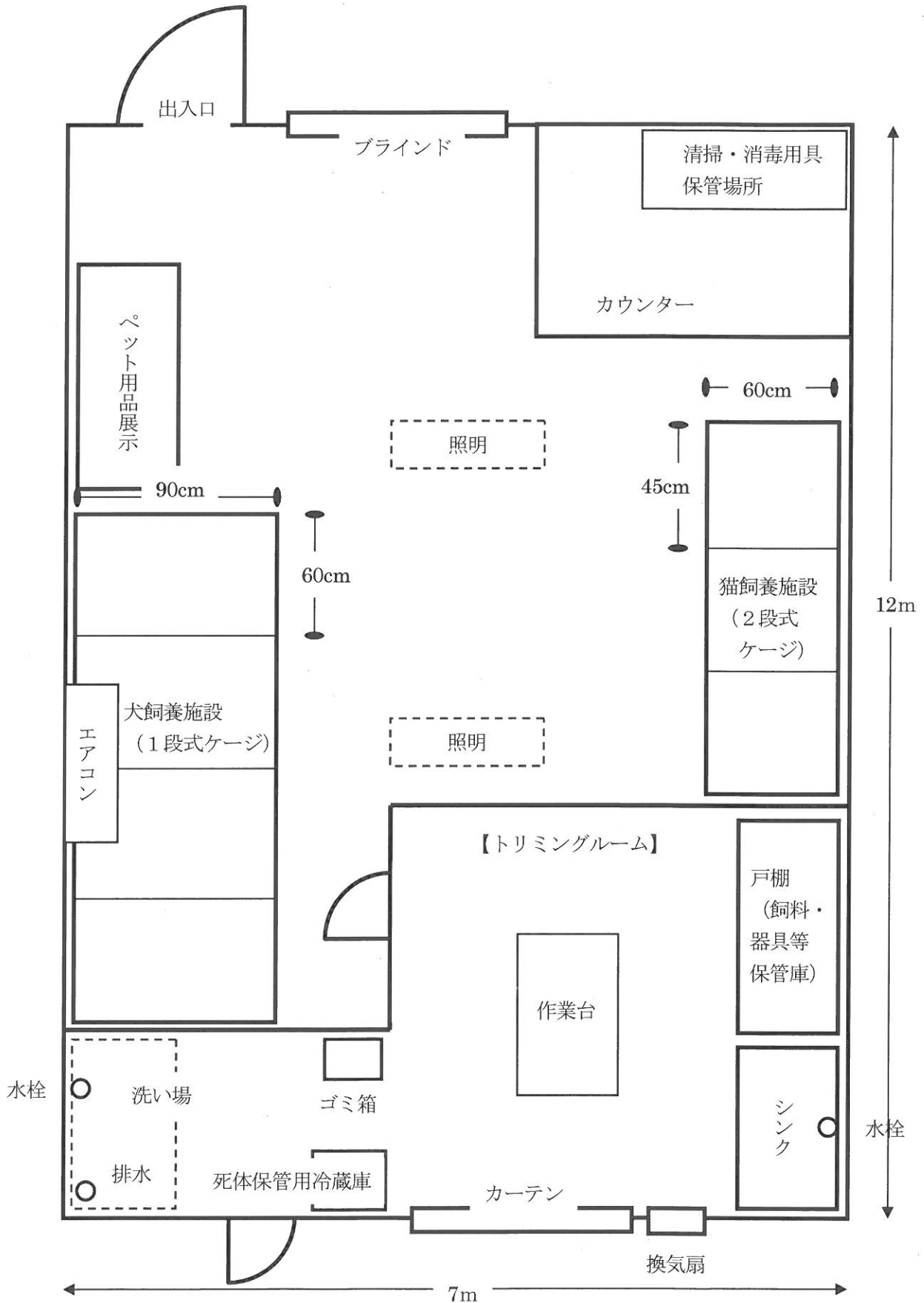


飼養施設の平面図（記載例）



## 飼養施設の平面図記載上の注意

○平面図には、次に掲げる設備等の配置を明らかにしてください。

(動物愛護管理法施行規則第2条第2項第4号イからワ)

- イ ケージ等（動物の飼養又は保管のために使用するおり、かご、水槽等の設備）
- ロ 照明設備（営業時間が日中のみである等当該設備の必要のない飼養施設を除く）
- ハ 給水設備
- ニ 排水設備
- ホ 洗浄設備（飼養施設、設備、動物等を洗浄するための洗浄槽等）
- へ 消毒設備（飼養施設、設備等を消毒するための消毒薬噴霧装置等）
- ト 汚物、残さ等の廃棄物の集積設備
- チ 動物の死体の一時保管場所
- リ 餌の保管設備
- ヌ 清掃設備
- ル 空調設備（屋外施設を除く）
- ヲ 遮光のため又は風雨を遮るための設備（ケージ等がすべて屋内にある等当該設備の必要のない場合を除く）
- ワ 訓練場（飼養施設において訓練を行う訓練業を営もうとする者に限る）

○飼養施設の構造、規模及び管理方法等について、下記の基準（動物愛護管理法施行規則第3条第2項）に適合していないと認めるときは、登録をすることができません。

- 1 飼養施設は、上記のイからワまでに掲げる設備等を備えていること。
- 2 ねずみ、はえ、蚊、のみその他の衛生動物が侵入するおそれがある場合にあっては、その侵入を防止できる構造であること。
- 3 床、内壁、天井及び附属設備は、清掃が容易である等衛生状態の維持及び管理がしやすい構造であること。
- 4 飼養又は保管をする動物の種類、習性、運動能力、数等に応じて、その逸走を防止することができる構造及び強度であること。
- 5 飼養施設及びこれに備える設備等は、事業の実施に必要な規模であること。
- 6 飼養施設は、動物の飼養又は保管に係る作業の実施に必要な空間を確保していること。
- 7 飼養施設に備えるケージ等は、次に掲げるとおりであること。
  - イ 耐水性がないため洗浄が容易でない等衛生管理上支障がある材質を用いていないこと。
  - ロ 底面は、ふん尿等が漏れいしない構造であること。
  - ハ 側面又は天井は、常時、通気が確保され、かつ、ケージ等の内部を外部から見通すことのできる構造であること。ただし、当該飼養又は保管に係る動物が傷病動物である等特別の事情がある場合には、この限りでない。
  - ニ 飼養施設の床等に確実に固定する等、衝撃による転倒を防止するための措置が講じられていること。
  - ホ 動物によって容易に損壊されない構造及び強度であること。
- 8 構造及び規模が取り扱う動物の種類及び数にかんがみ著しく不適切なものでないこと。
- 9 犬又は猫の飼養施設は、他の場所から区分する等の夜間（午後八時から午前八時までの間をいう。以下同じ。）に当該施設に顧客、見学者等を立ち入らせないための措置が講じられていること（販売業、貸出業又は展示業（動物の展示を業として行うことをいう。以下同じ。）を営もうとする者であって夜間に営業しようとする者に限る。）。